

（午前9時30分 開議）

○議長（石橋英和君）皆さん、おはようございます。大変な猛暑がやってまいりました。健康管理に十分ご留意ください。

ただ今の出席議員数は21人で定足数に達しております。

○議長（石橋英和君）これより本日の会議を開きます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（石橋英和君）これより日程に入り、日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、議長において11番 土井君、17番 松本君の2人を指名いたします。

日程第2 一般質問

○議長（石橋英和君）日程第2 一般質問を行います。

今回の一般質問の通告者は12名であります。質問は会議規則第62条の規定により、別紙の順序により発言を許します。

順番1、2番 阪本君。

〔2番（阪本久代君）登壇〕

○2番（阪本久代君）おはようございます。トップバッターで緊張しております。

それでは、通告に従い一般質問を行います。

まず、第一番目の質問は、長期総合計画の人口フレームについてです。

橋本市長期総合計画後期基本計画では、平成29年、2017年の人口見通しを6万7,000人としています。しかし、平成25年4月30日現在

の人口は6万6,594人です。国立社会保障・人口問題研究所が平成25年3月27日に公表した「日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月推計）」を見ますと、出生と死亡だけの要因で人口が変化すると仮定した推計結果では、2015年6万4,904人、2020年6万3,047人、2040年5万2,624人。人口移動の影響を含んだ推計では、2015年6万3,877人、2020年6万1,210人、2040年4万7,992人となっています。

日本の合計特殊出生率は、2011年で1.39と低く、日本全体が人口減少に向かっています。人口問題は、どの自治体にとっても課題です。長野県下條村では少子化対策にいち早く取り組み、出生率が全国平均を上回り、2003年から2006年の平均で2.04人、人口も1990年3,859人、2000年4,075人、2010年4,202人と増えています。

長期総合計画では、「人口減少は今後も続くものと考えますが、人口減少を最小限に止めるため、人口減少対応施策を行い、子育て支援や定住促進、企業誘致、新たな産業の創出など積極的に展開していくものとして、平成29年（2017年）の人口見通しを6万7,000人とします」とありますが、人口減少をとめられるとお考えですか。

2番目に移ります。人口を維持するために。橋本市の人口は、平成22年から平成27年の5年間で約2,300人減少する見込みです。これは長期総合計画からとりました。減少はとまらず、人口を維持するためには、今までの施策の見直しが必要ではないでしょうか。子育て施策と高齢者施策から問います。

1番目に、子育て世代を増やすために。橋本市は自然環境がよく、ゆったりと子育て

でするのにいいところだと私は思います。幼稚園のホームページを読んでいても、近くのお店に買い物に行き、皆でおやつをつくったりと、いろいろな体験を通してのびのびと育っているのがよくわかります。橋本市のいいところを、もっとアピールすることが大事ではないでしょうか。

一方、長期総合計画に本市の課題として、「子どものいる地域にするため、生みやすく育てやすい環境形成が課題」とあります。具体的には、橋本市幼保一元化5カ年計画に基づく、幼保一元化施設（認定こども園）の計画的な整備の推進と多様な保育機会の創出です。しかし、幼保一元化5カ年計画は、保育園・幼稚園を統廃合してこども園にするものであり、もともと子どもの少ない地域を子どものいない地域にしていったのではないのでしょうか。また、民営化することで、保育にかかる費用を削減しています。結局、人件費が低く抑えられ、経験の蓄積に支障となり、保育の質が下がらないか心配です。

また、子育て支援制度の充実として、前期基本計画の取り組みとして「小学生の医療費助成を行いました」とありますが、今後の課題には触れられていません。県下17自治体が中学生の医療費の助成を行っています。さらに、うち1自治体は18歳まで行っているのに、今後の課題とすべきではありませんか。

2番目、高齢者が暮らし続けるために。

高齢者が暮らし続けるためには、通院、買い物支援、生きがづくりが大事だと考えますが、いかがお考えですか。高齢者といってもいろいろな年代があるので、長期総合計画に本市の課題として「高齢者が増加する中、地域の担い手として地域社会への参画が課題」とあるように、高齢者の力をどう結集し、発揮してもらうか。また、いろいろな活動の中で出てきた問題に対して、相談できる場を

つくることも大事ではないでしょうか。

以上です。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君の質問項目1、長期総合計画の人口フレームに関する質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（森川嘉久君）登壇〕

○企画部長（森川嘉久君）皆さん、おはようございます。それでは、長期総合計画の人口フレームについてお答えをいたします。

本市では、平成20年3月に、平成29年度までの10年間を計画期間とする「橋本市長期総合計画」を策定し、まちづくりの基本指標として、平成29年の人口目標を6万7,000人としています。

議員ご指摘のとおり、本市の人口は平成11年をピークに徐々に減少し始め、平成24年9月末には目標としている6万7,000人を割り込んでいます。また、後期基本計画に示していますとおり、平成29年の人口は6万4,600人と推計され、目標としている6万7,000人と比較しますと2,400人程度少なくなる見込みであります。このことから人口減少については、周辺自治体と同様に本市が直面している主要な課題の一つと認識しています。

その上で、長期総合計画の基本構想として定めた6万7,000人のまちづくりをめざすには、後期基本計画に示している人や企業に選ばれたまちの実現に向けた主要な施策である、

1. 子どもを安心して産み育てる環境づくり、
2. いつまでも元気に暮らせる健康長寿社会、
3. 雇用の場の確保・創出、
4. 定住環境の創造・魅力の発信をはじめ、この計画に示しているそれぞれの施策を総合的に展開し、暮らし潤う魅力あるまちづくりを進めてまいりたいと考えていますので、ご理解のほど、よろしく願いいたします。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君、再質問

ありますか。

2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）今、ご答弁にありましたように、この人口問題というのは主要な課題であると認識しているというふうにおっしゃいました。その辺では、共通の認識と申しますか、皆が思うことではないかというふうに思います。

その上に立って、平成20年でしたか、今もう半分過ぎた時点で、かなり目標からいいますと人口に差が出てきている現状で、先ほど、さらに人や企業に選ばれるまちづくりということで、これからも積極的に取り組んでいくというふうにおっしゃったんですけれども、その言葉に間違いはありませんでしょうか。

○議長（石橋英和君）企画部長。

○企画部長（森川嘉久君）ご指摘のとおり、現状でも人口が目標を割り込んでおる現状の中で、かなり見通しとしては厳しいというのは認識をしておるところでございます。

しかしながら、一応目標を定めまして、それに取り組んでいくという姿勢が大事かというふうに思っておりますので、先ほども申し上げましたように、目標に向けて施策を総合的に展開しながら、目標を達成できるように取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）方向性としては総合的に取り組んでいくということで、行政だけじゃなくて、全員でそれに向かっていかなければいけないというふうに思っております。

1番は終わります。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目2、人口の維持に関する質問に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（栢谷俊介君）登壇〕

○健康福祉部長（栢谷俊介君）皆さん、おはようございます。

それでは、1点目の、子育て世代を増やすためにとのおたがしでございますが、本市では、平成21年度に「橋本市次世代育成支援地域対策行動計画（後期計画）」を策定し、平成22年度より5カ年の計画で、「地域の輪でともに育ち合い、親子の笑顔が輝くまち」の実現のため、六つの基本目標を掲げ、各種施策を推進しています。

特に、延長保育事業、学童保育事業、地域子育て支援拠点事業、ファミリーサポート事業など12事業については、特定事業と位置付け、数値目標を掲げて積極的に取り組んでいるところです。さらに、保育料減免事業や小学生医療費助成事業など、子育ての経済的負担の軽減事業も実施しています。

また、少子化や教育・保育ニーズの多様化に対応するため、幼保一元化5カ年計画に基づき、認定こども園の整備を進めてまいりました。このことにより、3歳未満児の保育の受け入れ体制が充実するとともに、短時間児の3歳からの受け入れが可能となりました。さらに、子育て支援室を整備することで、地域の子育て支援機能も充実することができました。

子育て世代の方を増やすために、これらの子育てに関する情報をより多くの皆さまにお知らせできるよう、市の広報紙やホームページの活用や、今年度、橋本市子育てガイド「子育てのびの〜び」をリニューアルして、各保育園や幼稚園、市窓口で配布いたします。なお、今後はホームページや広報紙などで子育て支援に関する特集を掲載して、情報発信に努めてまいりたいと考えています。

また、昨年8月に成立しました子ども・子育て支援法では、平成26年度に子ども・子育て支援事業計画の策定が義務付けられており

ます。本年度にニーズ調査を実施し、本市の子育て支援のあるべき姿を探るとともに、子育て世代にとって魅力あるまちづくりができるよう、現在実施している施策の評価などを参考に、本市の実情に応じた子育て支援施策を再構築して計画を策定することとしております。

続きまして、2点目の、高齢者が暮らし続けるために、についてお答えさせていただきます。

本市の人口は、平成25年5月31日現在、6万6,388人であり、うち65歳以上の高齢者は1万7,208人で、高齢化率は25.94%となっています。近年、団塊の世代が次々と65歳に達し、また、60歳から64歳の方が5,849人いることから、今後、高齢者数がますます増加していくこととなります。

高齢者施策にかかわる事項については、橋本さわやか長寿プラン21（橋本市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）において、3年に一度見直しをしており、今後も高齢者が増加することを視野に入れながら施策を計画実施しているところです。

この計画は、高齢者が地域社会での営みの中で不自由を感じず、普通に参加でき、ほかの人と平等に権利と義務を分かち合えるというノーマライゼーションの理念に基づき、「人権を尊び、社会の連携を深める、健康で明るい交流のまちづくり」のために、総合的な介護予防の推進、地域ケア体制の充実、高齢者の尊厳の確保と権利擁護の推進、介護サービスの質の向上と利用者支援、生きがいの充実と安全で安心なまちづくりの推進、の五つの基本目標を定め、この目標を具体化するために施策を展開しています。

さて、高齢者にとっての三悪とは、疾病・貧困・孤立と言われています。介護予防に力を入れ、いつまでも元気で暮らしていただ

ることを基本としながらも、介護保険を使わざるを得なくなった方には、安心して介護サービスを受けていただけるよう、介護、予防、医療、生活支援、住まいの五つのサービスを一体的に提供していく、地域包括ケアシステムの構築を行っているところです。

介護予防への関心が高まる中、区・自治会、老人クラブ等への働きかけにより、住み慣れた地域において介護予防に取り組んでいます。げんきらりー自主運営教室、ふれあいサロンなど、地域ではそれぞれ趣向を凝らした取り組みが展開されており、まちづくりの一環として一役を担っているところです。参加されている高齢者からは、生きがいになっていると好評であり、今後も大きく広がっていくことを支援していきたいと考えています。

一方、生活支援における課題ですが、高齢者が安心して暮らせるように、保健、介護、医療、福祉等の各支援体制の充実強化や、地域のさまざまな社会資源を活用し、地域で助け合い、支え合う仕組みをより一層推進していくことが必要であると考えていますので、今後も必要なサービスの確保に努めてまいりたいと思います。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君、再質問ありますか。

2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）最初に、子育て世代を増やすためにというところから再質問していきます。

子育て世代を増やすためにということであれば、今いてる子育て世代が転出しないようにするというのと、それとまた、新たに市外から転入してもらうような施策をとっていくということが大事だと思うんです。

その中で、先ほど、「子育てのびの〜び」を改訂して配っていくということもおっしゃいました。ただ、私、実物は見てないんですけ

どもホームページでこれを見ましたら、かなりのページ数があって、現在のなんですけど、冊子になっていて、何ていうか、これから子育てされる方とか転入される方に渡すのには、すごくぴったりのものだと思うんですけども、これからどこに引っ越そうかと考えておられる方にアピールするには、もっと簡単なものが必要ではないかなというふうに思うんです。

例えば、この子育て、市外から転入してもらうのということで、大阪府内からの転入とかを考えて、堺市であるとか河内長野市のホームページとかも見たんですけども、そうしましたら、河内長野市は教育立市宣言ということで、「教育立市のまち河内長野」ということで、こういう形でかなりわかりやすく、これはホームページから取り出したんですけど、そういうものができているんです。それとか、こういう形でね。ホームページを探すかどうかということは、引っ越し先を決めるときに見るかどうかというのはありますけれども、それとか、あと堺市でしたら、ホームページを見たらば一んと「子育てするなら堺、さかい子育て応援団」というのがぼ一んと出てくるんです。

だから、今はどこの自治体でも、子育て世代を増やす、若い世代、子どもたちを増やすのに、まあ言うたら、どこもが一生懸命になっているというのが、そういう状況があると思うんです。そういう中で橋本市を選んでもらおうと思った場合に、かなりわかりやすいアピールするものというか、そういうものがないと、かなりしんどいんじゃないかなと思うんですが、そういうものをつくっていこうという、今やっていることを書いたもので言ってるんですけど、そういうふうな、例えば、橋本市の場合は大型宅地開発で、ずっと住宅をつくって転入者を増やし、人口も増やして

きているわけですが、そういう住宅会社とかにも渡してアピールしてもらおうような、そういう簡単なパンフレットをつくっていこうとか、実はもうあるんですということかもしれませんが、そういう予定とか計画とかはないんでしょうか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（栢谷俊介君）アピールしてはというおただしですけども、また、先ほど述べさせていただきましたように、本市でも広報紙とかホームページ、それから先ほど言わせていただいた「子育てのびの〜び」等で、保育園とか、橋本市の子育てのアピールはしているんですけども、おっしゃられるように、もっとコンパクトでインパクトのあるものということでございますので、今後、また考えていきたいと思えます。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）ぜひよろしく願いいたします。

それで、次に、もう一つは、いろいろ調べていく中で、長期総合計画を見ていましたら、74ページのところに、さっきも言いましたけれども、前期基本計画の取り組みとして、子育て支援制度の充実の中には、小学生の医療費助成を行いましたというふうに書いてあるんですが、今後の課題というところには、そのことが一言も入っていないんです。その後ずっと読んでいっても、乳幼児、小学生の子どもの医療費の助成ということは出てくるんですが、医療費支援支給事業ということで、子育て支援制度の充実ということでは出てくるんですが、調べていてびっくりしたんです。

堺市にしても大阪市にしても、中学校卒業までの医療費の助成はやっているんです。ただ、1医療機関ごとに1日当たり最大500円、月2回という制約はあるんですけども、とにかくやっているんです。河内長野市でも、

入院は中学卒業まで無料、通院の場合は小学校3年生までなんですけども、こういう点で言っても、まあ言うたら、これだけをとってみれば、人を呼んでくるということであれば、もう既に遅れているといえますか、今までも同僚の議員の方も、この中学校卒業まで医療費の助成を増やすように何度か質問もされてきてますけれども、今までの答弁の中でも、条件を整えば検討もしていくという形の答弁であったと思うんですけども、この長期総合計画の今後の課題の中に、これが一切入っていないというのは、おかしいんじゃないかと思うんですけども、その辺ではいかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（栢谷俊介君）長期総合計画の中で入っていないということでございますけれども、私たちも、中学生医療の助成については子育て支援の充実ということで、今後取り組んでいきたいとは思っております。取り組んでいきたいと思っておりますが、今、小学生医療が始まったところでございますので、限られた資源の中で優先順位をつけてやっているということでございまして、取り組むにあたっては、県の助成とか、そういうことがあってはじめてやっていけると思っていますので、県の助成のほうへお願いしていくということで、よろしく申し上げます。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）かなり消極的な答弁だったんですけども、せめて、何ていうか、全く考えていないというのであれば、この長期総合計画のどこかに入れておいてもらいたかったなというのが私の思いです。

ただ、さっきも言いましたけども、若い世代を取り込むという点からいえば、この点ではもう既に遅れてますので、県に頼るだけではなくて、いろいろな方法で実現の方向に向

かっていっていただきたいというふうに思います。

もう一つは、幼保一元化5カ年計画なんですけれども、この幼保一元化5カ年計画は、建物の老朽化であるとか、あとは幼稚園とかが少人数になってきてということで、統廃合も含めてやってきているという経過があると思うんですが、それと民営化ということで、実際には一次計画だけじゃなくて、今また（仮称）応其こども園も進められておりますし、この分でいけば、残るのは紀見地区だけということになっていきます。

そういう中で、結局、統廃合と民営化とで、今まで医療や幼稚園にかかってきた費用といえますか、そういうものがかなり削減される結果になると思うんです。その中で、先ほども言いましたけれども、委託料が保育単価によって決められている。保育単価ですと実際の、何ていうのかな、保育単価で決めることによって、かなり委託料が低くなっているんじゃないかというふうに心配しているんですけども、例えば、今までの公設公営で保育をした場合には、保育単価で計算した場合と比べたら、かなり市が上乘せしていたんじゃないかと思うんですけども、そういうことはなかったでしょうか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（栢谷俊介君）公設民営でやっていたらいいんですけども、公設民営というのは、法人にとりまして大変魅力的であると思います。というのは、保育に専念できるということでございまして、建物の修繕とか大型備品はすべて市で対応いたしますので、法人は子どものことだけに集中できるわけございまして、そういう意味では、保育士にとっても園にとっても、保育の質とかについては影響を与えるものではないと思います。

あと、人件費のことでございますが、現在、国で定めた保育所の措置費の基準で、ほぼ同様の基準で計算させていただいて法人に支払わさせていただいているのでございますが、これにつきましては、旧の公立も、それから私立も、皆もともこの基準でやっておりますので、この基準に基づいて人件費を支払うことで保育の質の低下とか、そういうことにつながるということはありません。ないと思います。

それから、また昨年成立しました子ども・子育て支援制度で、職員の処遇改善を含めた保育・教育の質の改善に0.3兆円を国のほうで予定しておりますので、この辺でも、よりたくさん支給をできると考えておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）今回するのに、ちょっと調べ切らなかったんですけども、かなり昔に、古い資料で申しわけないんですけども、この保育単価そのものが、国の基準そのものが平均年齢を低くした、低い年齢で計算した保育単価であるというふうに聞いたことがあるんです。で、公設公営でずっとしてきた場合に、保育士の年齢がどんどん上がっていくので、それでいくと、結局は保育単価では足りなくなって、ほかから上乘せしないと成り立たない、保育単価と人件費だけを考えた場合に、ということを知ったことがあるんですけども、今までも保育単価で同じようにしていたということであれば、公設公営から公設民営にするときに、建物は一緒ですから、この人件費においてこれだけ削減できましたという形が出てくること自体が、おかしくはないんですか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（枅谷俊介君）先ほど言われました保育単価でございますが、保育単価は

園の規模によって決まっております、そういう年齢とか、職員とか、そういうことでは決まっておりません。小規模園になるにしたがって保育単価が、運営が難しくなりますので、小規模園に手厚い保育単価。それは国のほうで査定した中で、小規模園のほうが高くかかりますのでということで、小規模園のほうが高い基準となっております。大きくなればなるほど低くなります。

もう一つ、何でしたか。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）もう一つは、公設公営から公設民営にして、これこれ2,000万円とか3,000万円とか削減できましたとかという話が、よく出てくるではありませんか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（枅谷俊介君）建物についても公立の場合は見ておりますので、その保育単価は人件費だけでございますので、それ以外の建物、それから修繕、その他もろもろが、公立の場合はすべて見ていかなければならないのでお金がかかっておりまして、比較しますと、人件費だけでやる指定管理者の法人と比べますと、やはり公立のほうが高くつくということになります。

以上です。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）先ほどの私の言った過去の話は、今は確かに言われたように、保育単価について、規模とか子どもの年齢によってこれだけですと決まっている一覧は持っているんです。そうじゃなくて、その金額を出すときの基本になる保育士の年齢を、給料の低い年齢に合わせて計算しているというふう聞いたことがあるという話。でもこれは、あるという話なので、証拠は見つけられなかったの。

今まで、そしたら5,000万円とか2,000万円

とか削減できたというのは、建物も含めての話だったんですか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（栢谷俊介君）比較しましたのは、予算・決算の段階で比較しましたので、すべて入っております。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）そうしますと、新しく建設したときの費用も含めてということになるんですか。比較してといたら。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（栢谷俊介君）建設費というのは含めておりません。ただ、本来市で建設した後に維持する費用と人件費、その分と、それから保育所で指定管理者で運営する費用を比較した場合に、それだけ削減になるということでございます。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）そうしましたら、やっぱりその中でも、人件費が大きな割合を占めるのではないかなと思うんですけど、今、まだ、高野口こども園とすみだこども園と、2園しか実際には運営されていないので、まだまだ検証できてない部分はあると思うんですが、やっぱり保育というのには、ゼロ歳から5歳まで6段階ありますし、たくさん経験を積んでいった保育士がたくさんおられるということが大事だと思うんです。そういうことからいけば、できるだけそういう方を採用できるような、若い方だけじゃなくて、いろんな年代の方が採用できるような委託料に、ぜひともしていただいたいというふうに思いますが、その点はいかがですか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（栢谷俊介君）その点につきましては、指定管理者と協議の中で、経験年数が3年以上の者を何人以上とかということも決めておりますし、高野口もすみだも三石

も、園長はすべて本市の園長で、もともと本市の保育園の園長でございました方にやっていただいております。経験の蓄積とか、それから保育の質の低下とかがないように、今までと同じように、保育園の園長が公立であったときと同じように保育士を育てておりますので、そういうことはないと思います。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）ただ、地域の皆さんとかの声を聞いていますと、例えば、高野口こども園でいえば、今、4年目でしたか、そのぐらいになっていると思うんですけど、もともとの公設公営の保育園を経験していた保護者の皆さんが、だんだん卒園されていって、今の高野口こども園の保育しか知らない保護者の方が増えてきているというふうに聞いているんです。それは、子どもさんはどんどん成長するんですから、どこの園でも言えることだと思うんですけど、それでいえば、もとの橋本市の保育がどんなものかわからない方が多い中でといたら、やっぱり自分の子どもが受けている保育が、それが一番いいんだというふうに思うのが普通だと思うんです。それでいけば、なかなか同じようにしているといっても、評価は難しいところではないかなというふうに思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（栢谷俊介君）保護者の方は、どんどん子どもさんが大きくなられて卒園されますので、どんどん入れ替わりますので、旧の高野口の保育園のことは知らないということですが、保育士は、もう以前からずっと高野口でおられた方も来られます。対応しておりますので、旧の高野口の保育園の保育も継続しております。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）この長期総合計画を見

てみましたら、とにかくこの幼保一元化5カ
年計画を進めていくんだということがすごく
強調されているんです。それに対して、どん
どん進んでいく形には見えているんですけれ
ども、やはり、ところどころで立ちどまって、
いろいろな検証もしていくべきだと思うん
です。でも、この辺はもっと詳しく、細かく、
また次回に質問したいというふうに思います。

それで、私の希望でいいましたら、とにか
く、子どもたちが橋本市では健やかに育て
るように、十分な保育が受けられるようにし
ていただきたい。委託料についても、増やす
方向で考えていただきたいというのが要望で
ございます。

高齢者のほうに移ります。高齢者のほうで
いえば、先ほど、今までもいろいろなことに
取り組んでおられて、その中で、今後も生き
がづくりと申しますか、区・自治会や老人
会、そして、げんきらりーやふれあいサロ
ンとか、そういうものも今後も大きく広が
っていくように支援をしていくというふう
におっしゃいました。

生きがづくりということでは、本
当に今されていることというのは大事だ
と思うんです。このふれあいサロンにつ
いても、最初から始めてこられた方とか
は、いろいろな思いでされてきている
けれども、場所の問題であるとか、担
い手であるとか、後継者のこととか、
いろいろな悩みもありながら今まで
やってこられた。そういう中で、行政
のほうもいろいろな支援もされている
と思うんですけれども、さらにきつ
ちりと、相談事があるときに相談に
乗っていく体制をつくっていただ
きたいというふうに思うんですが、
もう既にありますでしょうか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（栢谷俊介君）議員がお
っしゃられるとおり、生きがづくりにつ
いて、

生きがいを持てるようにということで、さ
まざまな取り組みをしていきたいと思
いますが、地域包括支援相談につ
きましては地域包括支援センター
で相談を行っているということで
啓発しております、相当な取
組みをしておりますので、そ
ちらのほうで取り組んでい
きたいと思いますが、先ほど
言われました生きがづくりで
ございますが、これも体力づ
くりというのも生きがづく
りになっていると思
いまして、体力づくりを
生きがいにされている
方もたくさんおられます
ので、この5月より実施
いたしました「いきいき
ルーム」も、そんな意味
では生きがづくりにな
っていると思っております。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）いきいきルームも
かなり利用者も多いというふうにも聞
いているんですけれども、高齢者に
とったら、やっぱり生きがいも大事
だし、橋本市に住み続けようと思
ったら、やっぱり交通の便と申
しますか、移動の手段がどうしても
いろいろネックになってきたり
すると思うんです。生きがづく
りだけじゃなくて、通院とか買
い物とかも全部、この交通手段
というのがかなりネックにな
って、実際になかなか自分で
買い物に行くのがしんどくな
ってきたら、市外の子どもの
ところに転居したりとかとい
う話なんか聞きますので、同
時に、今も確かにいろいろ
あるんですけれども、それを
さらにもっと充実させてい
ってほしいなというふうに
思います。

ただ、先ほど、これから介護
予防とかも力を入れてという
ことも言われましたが、ただ、
今の国の動きからいけば、
介護の費用がかなり増えて
きているということで、この
予防の部分から外される
という方向なんか、時々
新聞報道でもされています
ので、かなり注意して見て
いかないといけない点も
あると

は思うんですが、法律が変わってもというのはもう無理ですけども、そうならないように、やっぱりお年寄りの方が本当に生き生きと住み続けられるように、県や国に対しても市からも働きかけをしていていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（栢谷俊介君）議員ご指摘のとおり、高齢者が元気に生活するためには、通院とか買い物などの生活支援、これが課題になってくるわけですけども、そのためには、一番の課題は高齢者の移動手段ということでございますが、今後、車などの移動手段を持たないで、買い物や病院に行けない高齢者が増えてくると思いますが、本市においては、福祉有償運送とか福祉タクシー、それからコミュニティバスや一般バス、それからタクシー等の公共交通機関の活用も含めて、支援の確保に努めたいと考えております。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）よろしくお願ひします。コミュニティバスでいえば、全市にというのはなかなか難しい面もあって、まだ抜けているところもありますので、できるだけ充実させるようによろしくお願ひいたします。

で、介護保険のほうは答弁もれですが。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（栢谷俊介君）介護保険のほうは、新聞紙上で時々見ましたら、その支援のほうをどうのこうのというような文章が見受けられるんですが、介護保険についても、今後、介護保険の制度を落とすことなく国が運営してくれるように、県にも国にも要望してまいりたいと思います。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）よろしくお願ひします。

終わります。

○議長（石橋英和君）2番 阪本君の一般質

問は終わりました。

この際、10時35分まで休憩いたします。

（午前10時19分 休憩）